

人の手で自然をとりもどす11

富士宮市内小学校

佐野 さん

夏休みに家族で浜松の蒲川というところの川に遊びに行きました。その川は、緑色で水がすきとおっていて水の中にもぐると魚が見えました。川のそこからわき水がわいていました。もぐっていると岩にはりついていてたくさん魚を見つけて一匹つかまえました。

お母さんに見せてみたら、お母さんが、「もしかしてカジカじゃない。」と言うので調べたら本当に、カジカという魚でした。

カジカとは、きれいな川にしか生息できない魚だそうです。準絶滅危惧に指定されている魚だそうです。

昔は、お母さんの実家の川にもたくさんいて家でカジカを飼っていたそうです。

でも今おじいちゃんちに遊びに行ってもカジカはどこにもいません。どうしていなくなったのだろうと悲しい気持ちになりました。

ぼくは、前に読んだ本にのっていたクニマスという魚のことを思い出しました。

クニマスという魚は、昔は、秋田県の田沢湖に、生息していた魚です。水力発電所ができたことで、発電用水が湖に流れこみ一九四〇年以降に絶滅したとされました。

しかしその七十年後、山梨県西湖で発見されたそうです。なぜ秋田県にしか生息しないといわれていたクニマスが山梨県で発見されたのかというと、実は、絶滅する五年前、田沢湖のクニマスの卵を西湖に放流していたそうなのです。放流した卵がかえり、七十年かけて繁殖したのです。

人間の手でこわしてしまった自然を、もう一度ふっかつさせたのは、人間だということにぼくは、おどろきました。

クニマスは発電用水で生きられなくなってしまったけれど、おじいちゃんの家の近くの川からカジカがいなくなってしまったのはなぜなのか、おじいちゃんに聞いてみました。

おじいちゃんは、「一つは堤防ができて魚がかくれる木や大きな石がなくなってしまったこと。二つ目は、生活用水で川がよごれてしまったことだ。」と教えてくれました。

堤防も発電所も人が生きるために必要なものだと思います。でも、そのために大切な自然がうしなわれてしまうのは悲しいことです。

ぼくの将来の夢は、建築士です。色々なデザインの家を作ってみていからです。でも、川に行つて自然環境について考えてみて、ぼくは

ただ作るだけでなく、自然を大切に作る工夫をした設計のできる建築士になりたいと思いました。

八十年前、クニマスの卵を湖に放流して命をつないでくれた人たちのように、いつかまた魚たちといっしょに泳げる川がたくさんできるような環境を作っていきたいです。